



☆「りんご」、「かき」は肥大が大きく推移しています。☆
☆「もも」、「ぶどう」は収穫期が早まっています☆

令和6年8月9日
福島県会津農林事務所 農業振興普及部
(TEL 0242-29-5307)
JA会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況及び予報

会津若松市の令和5年7月の平均気温は25.7℃(平年比+1.7℃)で、降水量は189.0mm(平年比-7.0mm)と、**高温傾向**で推移しました。

東北地方の1か月予報(8/10~9/9)によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の**気温は高い**でしょう。降水量は平年並みか少なく、日照時間は平年並みか**多い見込み**です。

2 生育概況(8/1現在、会津若松市)

表1 各樹種の果実肥大状況(8月1日調査、暦日比較、平年は1986~2023年の平均)

樹種 品種	りんご		かき	
	ふじ		会津身不知	
調査地点	会津若松市北会津町		会津若松市門田町	
分類	縦径	横径	縦径	横径
果実径(mm)	58	67	43	61
平年比(%)	104	110	141	137

(1) りんご

ア 果実品質

果実肥大は、暦日比では平年より大きく、生育日数比だと平年並みで推移しています(表1)。なお、早生品種では、直射日光が当たる樹冠表層において日焼け果が2~3個/樹見られています。

イ リンゴハダニ

北会津町の一部のほ場において、雌成虫が1葉あたり1頭程度発生しており、要防除水準に達しています。発生ほ場割合は平年並みです。

(2) かき

ア 果実品質

果実肥大は、暦日比では平年より大きく、生育日数比でも平年より大きく推移しています(表1)。

イ カメムシ類

会津地方におけるカメムシ類の発生量は平年並み~やや多いです。山沿いの園地では既に吸汁被害果が1~2個/樹見られています。

(3) もも

ア 収穫期・果実品質

会津若松市神指町では、「あかつき」の収穫盛が、平年より12日早い7月26日でした。6月以降(硬核期～収穫期)にまとまった降雨があったため、今年は裂果(図1)が多いです。糖度は平年並みです。



図1 裂果
(R6. 7/23 撮影)

イ せん孔細菌病

4年前にせん孔細菌病が多発した園地において、発生は少ない状況です(夏型枝病斑は1樹あたり2本程度)。

(4) ぶどう

ア 収穫期・果実品質

果樹研究所(福島市平野)における「あづましずく」の収穫始は7月31日で、平年より15日、昨年より8日早い状況でした。糖度は平年より高いです。



図2 高温障害
(R6. 7/25 撮影)

イ 高温障害

7月下旬以降の高温・強日射によりハウス・露地において、果実の高温障害が発生しました(図2)。

ウ 黒とう病

生育初期(5月)の発生を抑えられなかった園地では、果実感染も見られます。

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア かん水

通常は5～7日間隔で10aあたり20～30tかん水を実施しますが、乾燥が続く場合は、1回あたりのかん水量を調整し、かん水間隔を短くしましょう。

※収穫前の果実では収穫5～7日前のかん水は控えてください(糖度が低下するため)。

イ 草刈り・マルチ

草生園においては樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壤水分の保持に努めましょう。

※地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります。

ウ 病虫害防除

収穫前日数には特に注意し、使用濃度や使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) リンゴ

ア 晩生品種の仕上げ摘果

リンゴ(ふじ)では花芽分化期にあります。仕上げ摘果が遅れると養分の競合から翌年に充実した花芽を確保できない恐れがありますので、仕上げ摘果が終わっていな

い園地では迅速に実施してください。

イ 早生品種の収穫前管理

平年よりも気温の高い日が続いているため、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

ウ ハダニ類

梅雨明け後、高温乾燥が続く場合は多発する恐れがあります。なお、ダニ剤の散布は、効果を高めるために草刈り後、ハダニが樹上に登ってから実施しましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

昨年の凍霜害が発生した園地では、新梢の発生が多くなっています。8～9月にかけて3回程度に分けて新梢管理を実施してください(一度にせん除すると日焼け果の発生や枝の二次伸長を招く恐れがあるので注意してください)。

イ カメムシ類

園内での成虫の飛来状況をよく観察し、多数の飛来を確認した場合は、早急に殺虫剤を散布してください。

(4) モモ

ア 収穫前管理(晩生種)

今年のこれまでの品種の収穫期は、平年よりやや早くなっており、晩生種の収穫期も平年より早まることが予想されます。

修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置などを計画的に実施しましょう。

イ せん孔細菌病

降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第速やかに除去して適切に処分しましょう。

越冬伝染源の密度を低くするため、秋期防除(銅剤)は3回、確実に実施しましょう。

(5) ブドウ(収穫前管理)

今年は8月以降、高温が続く見込みで赤・黒色系の大粒種において着色不良が発生する恐れがあります。ハウスの間口(妻面)や側面を開け、風通しをよくしましょう。

なお、今後、まとまった降雨があった場合、裂果が進行することがあります。排水対策(明きよの再点検)をお願いします。

また、黒とう病の被害果は、品質が低下するとともに伝染源となるため、早期にせん除しましょう。

○近年、農業災害が多発しています。農業保険(農業共済・収入保険)に加入しましょう!

○会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう!

○収穫残渣は、クマが電気柵内に入ろうとするきっかけになります!

園地に放置せず、適正に処理(一か所に集めて埋める、柵で囲う等)しましょう!

